

脳からみた 「こころ」と教育

岡崎市民病院副院長
早川 文雄 氏



教育随想

近年、脳科学の進歩は目覚しく、長くブラック・ボックスとされてきた心理的なこころの働きが脳の機能として理解されるようになりました。教育分野においても、記憶は睡眠しないと固定されないからテスト前の徹夜勉強は有効でないとか、分かりやすい説明を聞くと脳の回路が強化されて確固とした知識になるとか、人に説明する（言葉にする）と自分の理解が深まるメカニズムなど、例を挙げるにこと欠きません。

とりわけ、人間の一生を左右する感情や意欲といった、科学的なメスが入りづらい分野の解明が進んでいます。扁桃体という脳の一部分が現在の状況を快か不快か判断し、快ならば報酬系という脳回路にドーパミンという物質を流します。ドーパミンはあらゆる快体験で流れ、脳の働きを活性化させ、達成感をもたらす自己肯定感を育みます。また、うまくいかかもしれないという楽観視（報酬予測）が課題達成まで努力の継続を促します。このようにして、快体験の蓄積は報酬系を活性化させて意欲を高め



平成 28 年 2 月 1 日

2 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市民病院副院長 早川 文雄氏	
この人に聞く……………	2
稲垣腸詰店 代表 稲垣 雄三氏	
羅 針 盤……………	2
竜南中学校長 永田 勲	
ふれあい……………	3
梅園小 新井 健祐	
特 集……………	4
岡崎市視聴覚ライブラリー 有効活用でより豊かな教育を	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
東照公像お披露目 (昭和 47 年)	
この本を……………	8

る好循環を生んでいきます。一方、扁桃体が不快と判断すると、ストレスを乗り越えるために必要なノルアドレナリン（ノルアドと略）を放出させます。敵と戦ったり、逃げ延びるための臨戦態勢を作り上げるのです。しかし、慢性的にストレスが続くとノルアドが不足するようになり、不安や恐怖を感じ易くなり、ついには無気力（うつ状態）になってしまいます。これは脳の活力が衰え、悲観的になり、脳が悪循環に陥ることを意味しています。

子どもにとって重要な将来の脳の働きを考えると、快体験を増やして不快体験を減らすことが鉄則です。また、本能的や物質的な快と褒められる、認められるといった社会的な

快で同じ脳回路が使用され、それらが脳内で全く等価値に処理されることも分かりました。教育や子育てにおいてよく耳にする、「褒めて育てる」効果が科学的に実証されたのです。一方、叱り鍛える軍隊式の教育は、不快（ノルアドの放出）ばかりで子どもの脳を萎縮させてしまうことも肝に銘じる必要があります。

褒めて育てることが長所を伸ばすことにつながるの言うまでもありませんが、それと同時に重要なことは、子どもの欠点を無視することです。それは、短所を克服してあげることが教育の使命のひとつとする、現代教育における価値観の修正が求められていることを意味しているのです。

(はやかわ ふみお)





自分の進む道を切り拓く

稲垣腸詰店 代表
稲垣 雄三 氏

杉の香りに包まれた温かみのある店の天井から、何本もの肉の塊がぶら下がっている。稲垣さんは、生ハムやソーセージ、ベーコンなどを手作りする職人だ。

「もともとは、実家の写真店を手伝っていました。父親が他界し、継ぐ決心をしたころ、携帯電話にデジタルカメラが付いたんです。そのとき、この仕事に将来性はあるのかと不安になったんです。二十八、九のときでした。」

一年ほどいくつかの仕事を選びながら、自分探しをしていた稲垣さんがソーセージ作りと出会ったのは、飛騨高山でふらっと立ち寄った一軒の工房だった。

「その味に衝撃が走りました。自分もやってみようと思ったんです。」

しばらくして、偶然手に取った雑誌に、その店が載っていた。早速職人になりたいという思いを書いた手紙を送ったが、返事を待ちきれず、二

か月後直談判に行った。実家の写真店を母と妻に任せ、三年間無給の修業が始まった。

「初めの三か月は包丁も触らせてもらえませんでした。肉のさばき方も全く分からず、肉が温かくなっちゃうぞとよく叱られました。それでも、仕事は楽しかった。パズルがはまるように、自分にはソーセージ作りが、かちつとはまったんです。」

職人の技を学ばば学ばほど、師匠の味の元となったフランスに行きたい思いが募っていった。高山から岡崎に戻って三か月後、稲垣さんは、食通の街リヨン行きを決めた。

「着いてから、一からのスタートでした。本屋で情報収集したり、日本人街で話を聞いたりするうちに、食肉業界では有名な女性がいることを知りました。約束なしで彼女を訪ねていくと、ある老舗工房宛の紹介状を書いてくれました。その店こそ、今の自分の原点になっている修業先です。三か月間という短い期間でしたが、ハム作りの工程や肉の処理の違いなど勉強になりました。『時間をかけずに済ませようとしても、時間がそれを許さない』というフランスの古い警句どおりの丁寧な技でした。」

帰国後、念願の「稲垣腸詰店」を岡崎にある妻の実家を改装して構えることになった。



ることになった。

「店を立ち上げるこの大変さを痛感しました。どこもお金を貸してくれないのです。この職業が珍しくて分かってもらえませんでした。一年半、工場の派遣をして資金作りをしました。やつとオープンしてからも、やっていけると思えるまでに二年かかりました。そんなとき、『この仕事は裾野を広げることが大事。広がるまでには三年はかかる』という高山の師匠の言葉を胸に頑張りました。」

今年で、この店も七年目になる。

「自分が食べたいと思う物、家族に食べさせて体に悪くない物を作ろうと思っ続けています。化学調味料を使えば一さじ分の手間だけど、それはやりたくありません。すごく長い時間と工程をかけてでも、自然でオリジナルの味を作っていきたいのです。」

最近では、学校に物作り体験の講師として招かれることもある。

「将来やりたいことが決まっている子供は幸せです。自分は、二十代後半まで決まらなかった。もし見つからなくても慌てないで、でも着実にアンテナを張って周りをよく見て、自分が何をしたいのか見極める力を付けてほしいと思います。いろいろなことを知って、いろいろな人と会って、好奇心をもって育ってほしい。」

そう言って稲垣さんはうなずいた。

自分の進む道を、尽きない好奇心と人との出会いで切り拓いた稲垣さんの裾野は、この岡崎市で確実に広がっている。

氏名 いながき ゆうぞう
生年月日 昭和四十七年七月十九日
住所 岡崎市岡町



教師の姿勢

竜南中学校長

永田 勲

寒い廊下を歩く。等間隔で教室からの温かな風を感じる。この風に乗って笑い声、張りのある教師の声、次は……鉛筆を走らす音。歩く毎に次の風はどんな音を運んでくれるのかと期待する。

落ち着きのある学校には、目標をしっかりともった子供の姿がある。そんな子供を育てるためには、明朗快活で、一人一人を大切に作る、熱い思いをもつ教師の姿勢が欲しい。

「問題行動を起こす子供の親の八十パーセントは日常的に笑わない」という調査結果がある。強引だが、この調査の「親」を「教師」に置き換えてみるとどうだろう。いい子を育てるには、教師が日常的に笑えばいいと言ひ換えることもできる。

一人一人を大切にするという教師



級友とのかわりを通して

梅園小 新井 健祐

「何やってるんだよ。」

A男は、学級でも、最上級生としての部活動でも、自分の思い通りにいかないことがあると、きつい言葉を感情のまま周囲によくぶつけることがあった。

そんな折、本校で実施される「大縄ギネス大会」が近づいていた。大縄跳びでは、記録を出すために、相手と息を合わせ、互いを思いやらなければならぬ。過去数年破られていない三三三回の記録に挑戦することで、A男が相手の気持ちを理解できる契機となることを信じ、学級の目標とすることにした。力に自信のあったA男は縄を回す役を務めることになった。

練習は活気にあふれ、順調に記録を伸ばしていった。しかし、練習開始から二週間後、記録が三百回に迫ったところで伸び悩んだ。「やる気がないなら出る。」

A男は、記録が出ない苛立ちを跳ぶことの苦手なB子にぶつけ始めていた。縄を強引に回す姿も目立つようになつた。私はA男に「記録を出すためには、みんなのことを考えて縄を回すA男の工夫が必要だ」と助言した。しかし、練習の雰囲気は、日に最初の勢いを失っていった。

練習後、ミーティングを開いた。「うまく跳べないと、A男に責められるから嫌だ。」

「だったら跳べるようにもっと練習すればいい。」

すかさず、A男が強く言い返した。私はまず学級全体に「このままの状態では練習を再開していいのか」と投げ掛けた。子供たちは、「もっと励ましていきたい」「苦手な子は、得意な子が跳ぶタイミングを教えてあげる」と温かい言葉で答えた。この間A男は、級友の言葉をただ黙ってじつと聞いていた。

ミーティング後、A男と二人きりで話をした。

「A男の言うとおり、練習することが一番だ。でも、全体の様子を見て縄を回すことができるのはA男、君だ。みんなと協力して支え合おう。」

次の日、休み時間の練習を見に行つた。すると、B子を中心とした少数での練習が行われていた。一生懸命に縄を回していたのは、あのA男であった。彼女の跳ぶタイミングに合わせ、縄を大きく回して跳びやすく

する工夫をしていた。「ファイト。がんばれ。」とB子を励ますA男に、級友たちも続いた。

その後、徐々に練習に活気が戻っていった。記録が伸び悩むこともあったが、子供たちが互いを支え始め、問題を一つ一つ乗り越えていくことができた。何より今まで自分勝手に振る舞っていたA男が、級友に前向きな言葉掛けをしていることが学級全体の雰囲気を変えた。

一か月後、本番を迎えた。本番ではもたつく場面もあったが、A男は級友を励まし続けていた。記録は惜しくも三三三回だった。記録の更新はできなかったが、A男は落ち着いていた。そしてそこには、級友とともに苦難を乗り越えた後の満足した笑顔があった。



の姿を、オーケストラの指揮者に見立ててみよう。子供の個性は、オーケストラの楽器のようで様々だ。そういう様々な楽器を指揮者(教師)は、うまく引き出し、個性的な楽器が奏でる音色を大切に、調和のとれた美しい曲に仕上げている。教室がこんな楽団となれば最高である。

最近の子供たちは、教師を立場だけで尊敬してくれることはない。教師だから「言うことは絶対」という特別視をしてくれない。人間性を観ている。教師は一人の人間として子供たちに向き合わなければならぬ。私は教師だからという慢気は許されない。熱い思いを子供は感じ取り、「この人」に委ねる。

教師は博学多芸な力量を要求される。大変なことだ。が、得手不得手はあっても、何もできないからと徒手空拳は許されない。指導技術はさることながら、教師としての確固たる姿勢をもちたい。その先に、爽やかな風の流れる学校がある。

三年生の教室前廊下。他学年よりも広く開いた窓から見える子供たちの顔に曇りは無い。高校入試を控えるこの子供たちの教室から流れ出る風は、熱い。

岡崎市視聴覚ライブラリー

ハッピーラーニング

健康に関する知識・理解

- ・食育
- ・安全教育
- ・防災教育



有効活用でより豊かな教育を

▲ ハイビジョン対応プロジェクターの活用（六ツ美西部小学校研究会にて）

昨年度、岡崎市視聴覚ライブラリーは、創立六十周年を迎えた。昭和二十九年、県下に先駆けて市内小中学校の視聴覚教育の進展に寄与することを目的に「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」として発足した。その後、社会教育と学校教育が一体化した公立の施設「岡崎市視聴覚ライブラリー」となり、現在に至っている。

生涯学習の推進が、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で制定されて以来、多くの市町村で視聴覚ライブラリーが開設されたが、今や県下において残っているのは、十七市町村のみになっている。貸し出し業務一辺倒の視聴覚ライブラリーは衰退していったが、市民のニーズに添って新しい取り組みをしている岡崎市視聴覚ライブラリーは、今日も発展を続けている。教育支援活動に重きをおき、16ミリ映画フィルム、ビデオ教材、DVD教材、自作のビデオ番組を貸し出す映像センターとしての役割を担っている。また、自作視聴覚教材づくりをする教材センターとしての役割などを担いながら、岡崎市の視聴覚教育の拠点ともなっている。

今後、さらなる視聴覚教育の充実のためには、我々が有効活用をしていくことが必要不可欠である。ライブラリーは、館外でも上映できる著作権処理済みのDVDや岡崎にスポットを当てた自作ビデオなど、使える教材・機材の宝庫である。子供たちの教育をより豊かにするために積極的に活用したい。

こんなときは…

- ・昔撮ったビデオをこれからも活用したいなあ。
→VHSのデータをDVDに記録することができます。
- ・学芸会でインパクトのある入場音楽がほしいなあ。
→いろいろな音響の相談にのります。
- ・今、見ているテレビ番組を授業で使いたい。しまったなあ。
録画しておけばよかった…。
→教材として録画されているかも…。お電話で相談を。

**困ったらまず
お電話を**

〈場所〉 岡崎市役所西庁舎南棟 2階

〈開館日〉 月～金 9:00～17:15

土 9:00～12:30

〈TEL〉 (0564) 23-6789

〈FAX〉 (0564) 23-6794

〈HP〉 <http://www.oavl.jp/>

〈E-mail〉 oavl@st.oklab.ed.jp

上手に活用しよう！ お宝いっぱいライブラリー

教材貸し出し

著作権処理済みの安心教材。英会話や交通安全指導など、幅広く使えるラインナップ。



▲豊富なDVD資料



▲教材目録

自作ビデオ261本
ビデオVHS版2839本
ビデオDVD版1218本
所蔵。



▲巡回郵便で借りることもできるDVD教材

- ・貸し出し期間は1週間。手続きをすれば予約状況次第で延長も可能。
- ・貸し出しは、一度に教材7点、機材10点以内。
- ・HPからも予約が可能。開館時間外はネットで予約。

親子映画会

7か所の市民センターとぬかた会館で開催。



16ミリフィルムでの上映は、情緒があつて大人気。

▲アニメの上映を楽しむ親子(中央市民センター)

ビデオ講習会

中学生から一般が対象、毎年夏休みに開催。人気の講座。



初級は撮影実習、中級は編集実習。

▲自分の作品を見る受講生

作った作品を応募してみよう!

子どもビデオ教室

小学校を訪問して児童とビデオ作り。(矢作南小)



▲パソコンを使った編集作業



▲創った作品の上映会

ナレーション、撮影、編集、監督など、役割分担して協働学習。

総合学習や授業のまとめが約10分の映像作品に。

ふるさと岡崎メディアコンクール

第13回ふるさと岡崎メディアコンクール

市民生活者主催制作映画・作品を募集します

●募集期間
平成27年11月9日(月)～12月4日(金)
平日：午前8時30分～午後5時15分
土曜日：午前8時30分～午後0時30分
郵送での応募も受け付けます。(最終日消印有効)

●応募先(郵送可)
岡崎市視聴覚ライブラリー
〒444-8601
岡崎市菅生町1丁目3番地1(市役所西庁舎 南棟2層)
TEL0564-23-6789

●募集部門
①生涯学習部門
②学校教育教材部門【ビデオ教材】【マルチメディア教材】
③児童生徒作品部門【ビデオ教材】【マルチメディア教材】

●テーマ
自由
(岡崎市の生涯教育、学校教育の教材に適した題材・内容であること)

●利用メディア
ビデオ教材 S・VHS・VHS H・8.8ミビデオ、ミニDVD、DVD、BD等
マルチメディア教材 CD、DVD等

主催 岡崎市視聴覚ライブラリー

▲平成27年実施

お知らせ



● 教育最新情報

◆ 来年度の研究発表校

来年度の市委嘱及び自主発表校の研究主題と公開する授業の教科・領域は、次の予定である。これからの研究、研修の参考にしてほしい。

○ 市委嘱研究発表

- ・三島小学校（社会科・生活科）
- 「思考力・判断力を伸ばす社会科・生活科の授業―地域教材の開発と思考・判断の「すべ」を活用した学習指導を通して―」
- ・山中小学校
- （国語科を基盤とした各教科・領域）
- 「生活に生きて働く『書く力』の育成―『書写力』『語彙力』『実用力』を基盤とした書く授業」
- ・葵中学校（全教科）
- 「協働的な学習を軸とした思

○ 自主研究発表

- ・連尺小学校（算数）
- 「ESDの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺教育―コミュニケーション能力を思考力・実践力へ―」
- ・藤川小学校（全教科・領域）
- 「仲間と関わり合いながら、主体的に学びを深める子供の育成―学習・学級の規律作りと子供を生かす日々の授業実践を通して―」
- ・小豆坂小学校
- （生活科・総合的な学習）
- 「地域と共に、未来を創る小豆坂の子の育成 ―思考スキル・ツールを活かした小豆坂カリキュラムデザインへの探究―」

・竜海中学校（全教科・特別支援）
「わかる学習指導 第11次研究・2年次 竜海式Active Learning―ロニエニケーションを取り入れた教科学習を中心にして―」

◆ 第49回愛知県教育研究論文

今年度の愛知県教育研究論文では、岡崎市から、次のように入賞をした。最優秀賞一点、優秀賞一点、佳作二点と、多くの入賞者が生まれ、日々の努力が認められる形となった。特に最優秀賞では、道徳教育における継続的な研究を行っている点が評価された。

新年度も、理論部分の整合性や実践部分の検証に留意するとともに、文字数や資料の載せ方などの体裁にも十分に気を付けて、論文執筆に取り組んでほしい。

- 最優秀賞
- 根石小学校 大本満子
- 「友達に温かな気持ちでかかわろうとする心を育む道徳教育」
- 優秀賞
- 宮崎小学校 勝本ゆき子
- 「物語の構成や表現に目を向けて読み味わい、自分の読書生活を広げることができるとの育成」
- 佳作
- 井田小学校 岩野慎也
- 「算数的活動を通して、主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成を目指して」



▲教育研究所に展示中

六ツ美北中学校 森雄一郎
「職業生活へ向けた実践的な態度を育成する」

◆ 第59回小中学校書き初め展

一月十五日（金）から十七日（日）まで、岡崎市美術館で、小中学校書き初め展が開催された。市内の各小中学校及び聾学校七十校から、各学級の代表作品二点ずつ、約二一〇〇点が展示された。

今年度は、特別展示として「市制一〇〇周年記念企画作品の部」を設け、市制一〇〇周年にちなむ各学校の代表作品を展示して、来場者からの

好評を得た。

また、昨年度に引き続き、鉛筆を正しく持って文字を書く力を付けることを指導目標とした、硬筆書写作品も展示した。

会期中、約六八〇〇人の方が会場を訪れ、子供たちの作品を鑑賞した。特に土、日曜日には家族連れで来館する方が多く、作品の前で語り合ったり、記念撮影をしたりするほほえましい姿が、会場のあちらこちらで見られた。

展示された書き初め作品と市制一〇〇周年記念企画作品は、全て文集「おかげさき」に掲載される。



●表彰

○小学校の部

金賞

大樹寺小 金管八重奏 A

竜美丘小 金管八重奏

銀賞

大樹寺小 打楽器五重奏 A

竜美丘小 金管八重奏 B

竜美丘小 クラリネット五重奏

フルート三重奏

サクソフォン四重奏

打楽器五重奏

◆第14回全国こども科学映像祭

審査委員会特別賞

北中 内田 悠雅

佳作

北中 内田 桜綾

◆第12回「徳川記念財団コンクール3岡崎」徳川家康公作文コンクール

最優秀賞(徳川賞)

大樹寺小 佐々木瞭多

井田小 新井 優花

矢作東小 鶴田 悠仁

岡崎市市長賞

福岡中 築山 隆司

教育長賞

大樹寺小 内田 峻雅

岡崎商工会議所会頭賞

竜美丘小 井内 愛梨

中日新聞社賞

葵中

大樹寺賞

大樹寺小

伊賀八幡宮宮司賞

美合小

龍城神社宮司賞

三島小

◆第42回岡崎市小中学生作文コンクール

市長賞

大樹寺小

岩津中

市議会議長賞

岡崎小

六ツ美西部小

岩津中

美川中

教育委員会賞

緑丘小

竜美丘小

六ツ美中部小

上地小

矢作北小

矢作南小

矢作中

竜海中

葵中

大門小

竜海中

川合 伸哉

鈴木 日菜

柴田 悠翔

川本 夏輝

巴山 侑莉

馬場真由花

平井 航世

三浦 煌太

宮川 茅野

小林 哲子

石黒 真叶

山本 結月

石川 結翔

前口 慶祥

羽田 桂吾

内村 遥

渡部 咲水

小川 隼明

宮崎 笑帆

森下 真翔

兵藤 翔

●ハートピアだより

さくらプロジェクト

二期期の後半から通所希望の児童生徒が増え、所内は一段とにぎやかさを増してきました。人との関わり方が苦手であると言っている通所生。しかしながら、他者を意識しつつ、上手にコミュニケーションを取りながら所内で伸び伸びと学習に運動にと、取り組んでいます。エネルギーを貯め、次なるステップへの準備をしているところです。通所生にとって、何よりも楽しみにしているのが午後の活動の時間。とにかく体を動かすことが大好きです。何となく、一歩人気者がドッジボール(アメリカンドッジ)。小中学生が混じって大はしゃぎ。大きな子は、小さな子に対する配慮も忘れません。しかしながら所員には容赦なし。ものすごい勢いでボールが飛んでくるのでかわし切れません。さて、今年度もいよいよ大詰め。中学三年生にとっては、



▲パズルに取り組む中学3年生

次なる進路が気になりなってきました。こうした不安を乗り越切っていくと、ハートピア竜美では「さくらプロジェクト」と銘打って二〇一六ピースのジグソーパズルにチャレンジしています。中三限定の取り組みです。完成すれば満開の桜の木がお目見えです。限られた時間の中で、力を合わせて作り上げている姿は真剣そのもの。何かを成し遂げようとする顔は、生き生きと頼もしさを感じさせます。「エネルギーをしっかりと貯めたからね、大丈夫だよ」と、見守っている毎日です。

・カ
ツ
ト
三島小 浅井優子

東照公像お披露目 (昭和47年)

写真提供：城北中学校

昭和四十七年一月十五日。城北中学校開校十周年記念式典にて、徳川家康公（東照公）の木像が除幕された。

昭和四十六年一月七日、岡崎藩の藩校の跡にあった樹齢二百年を超える大きな松が枯れ、惜しまれつつ切り倒された。昔から「允文館の松」と呼ばれて、親しまれてきた木であった。そこで、家康公誕生の地のゆかりのある松で、東照公を木像として刻み、郷土の偉人をしのぼうと、学区にお住いの二科の彫刻家である江坂兵衛氏に制作を依頼した。

この木像は、鎧の上に陣羽織をまとった姿で、平和を祈念して苦勞し続けた人間性豊かな東照公が表現されている。そして、その平和への思いは、今も岡崎の教育に受け継がれている。



「とにかくすぐお電話を。」ライブラーのみなさんが笑顔で言ってくれました。著作権フリーのDVDや授業のまとめをビデオ化できるビデオ教室など、ライブラーは子供たちの学びを助ける教材がいっぱい。この宝物を使わない手はない。視聴覚教材は苦手だと億劫にならずに相談をかけてみよう。新たな世界が広がる。

ど ホ ツ 如 目



南公園の梅林

頬を真っ赤に染め、力いっぱい大縄を回す子供。大縄大会のために、一生懸命練習したのに優勝できなかった。落胆する子供たちに心を痛めながらも、この経験がいつか自分の力になると語った。

この世の中、努力しても報われないことが多い。しかし、その悔しさを受け止め、己の糧にできる強さを子供たちに伝えていきたい。

尽きない好奇心と研究心で、ソーセージ職人への道を切り拓いた稲垣さん。「動けば変わる、呼びかければ応える」を信条に、自分のやりたいことを追い求めてきた。「いろいろなことを知り、いろいろな人と会い、好奇心をもつ」。彼の言葉が、心に響く。目の前の子供たちが、将来に夢や目標をもつことができるよう、魅力ある学びや体験の場をつくっていきたい。



*男の品格を磨く事典
P H P 研究所

川北 義則
¥1,000

心に残った一文
威張るな。センスを磨け。粹がるな。情報に振り回されるな。自分で考える力を養え。

品格を備えた男はどこに出ても恥ずかしくない。やましいこと、あさましいことをしないからだ。情報に流されず、己の思考を信じ、自分の生き方に潔く、孤独を恐れない。常に心の軸がぶれず、己の道を行く覚悟ができています。

「一流とは周りの人間が認めてはじめて一流と呼ぶのである」と筆者は言う。自らの品格を磨き、一流の教師になるために読みたい一冊である。

*保護者とつながる教師のコミュニケーション術 小林 正幸
早川 恵子 ¥1,750
東洋館出版
*見抜く力 夢を叶えるコーチング 平井 伯昌 ¥720
幻冬舎新書
*<他人力>を使えない上司はいらない! 河合 薫 ¥720
P H P 研究所

六ツ美北中 岡部 克彦